

僕たちの命を支える税金

大阪市立堀江中学校3年1組 須川 あんじ

No. 1
ルバイトをして家計を支えることなど、到底

「新型コロナウイルスは現在：」毎日この
ような報道を僕は耳にする。本当にもううん
ざりだった。友人と一緒に笑い合っけて登校す
る日々も、必死に頑張ってきた水泳の部活で
さえ、一瞬にして、消えてしまった。今まで
当たり前だったことがどれ程ありがたいもの
だったのか、僕は思い知ることになった。家
庭では、いつもにこやかな母が僕がいままで
見たことのないような表情で、「ごめん皆。
お母さんもうコロナのせいでパートでられへ

No. 2
金のおかげだった。税金は国民の協力のたま

できるわけないのだ。自分の無力さを感じた。
できるだけ母と父の手助けになればと、休校
中の間は家事をいつも以上に手伝った。
そんな日々が続いたある日、母はいつもよ
り明るい声で「給付金がでるかもしれない。
助かった。」母の明るい声を聞いたのは久し
ぶりだった。僕は母の笑顔が好きだ。とても
うれしかった。初めて、お金の大切さ、当た
り前の日常がどれ程ありがたいものだったの
か知った。母だけではなく、もちろん僕の周

No. 3

物なのである。税金は給付金のみならず、様
々なところで利用されている。僕たちの命が
侵されている時、電話一本で、救急車や消防
車、警察がすぐに助けにきてくれる。生活に
困きゆうした時、「生活保護」という制度が
命を助け、仕事を支援してくれる。日本で餓
死を聞かないのは税金が僕たちを助けてくれ
ているからだ。税金は人々の、僕たちの命を
支えているのだ。
税金は年齢に関係なく、もちろん中学生の

僕も払っている。消費税だ。皆、税金によつ
てお互いの命を支えあっているのだ。ぼくも
これからこの制度に深く関わって、協力して
いきたい。僕の命をみんなの命を大切な命を
守るために。